

Rec'd PCT 20 JUL 2005

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-328012

(43)Date of publication of application : 28.11.2000

(51)Int.Cl. C09J 7/02

(21)Application number : 11-138729

(71)Applicant : SEKISUI CHEM CO LTD

(22)Date of filing : 19.05.1999

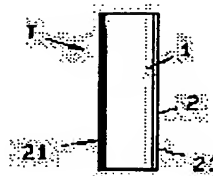
(72)Inventor : TADA HIRAFUMI

(54) ADHESIVE DOUBLE COATED TAPE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an adhesive double coated tape with which the adhesive is not exposed out of the peeling paper even if boards for construction with the adhesive double coated tape are piled up, which makes the handling easy and prevents from deteriorating the appearance of the boards for construction.

SOLUTION: An adhesive double coated tape T is obtained by laminating an acrylic adhesive 1 on the both sides of a nonwoven fabric substrate. A peeling paper 2 is obtained by applying a polyethylene lamination on the both sides of a paper substrate and then applying a silicone releasing treatment. Dry edge portions 21 and 21 with which no adhesive surface has a contact are formed on the both edges of this adhesive double coated tape T. This adhesive double coated tape T is obtained by, for example, laminating the adhesive tape 1 on a side of the peeling paper 2 on the both sides of which a releasing treatment is applied, cutting only the adhesive tape 1 by putting a blade from the side of the adhesive tape 1 with the width to form the dry edge portions 21 and 21, and then peeling off the half-cut adhesive tape 1 of the both edges.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-328012

(P2000-328012A)

(43) 公開日 平成12年11月28日 (2000. 11. 28)

(51) Int.Cl.⁷

C 0 9 J 7/02

識別記号

F I

C 0 9 J 7/02

テーマコード(参考)

Z 4 J 0 0 4

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平11-138729

(22) 出願日 平成11年5月19日 (1999. 5. 19)

(71) 出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72) 発明者 多田 衡史

兵庫県尼崎市潮江5-8-6 積水化学工業株式会社内

Fターム(参考) 4J004 AA10 AB01 CA02 CA04 CB02

CC03 DA04 DB04 EA01 EA05

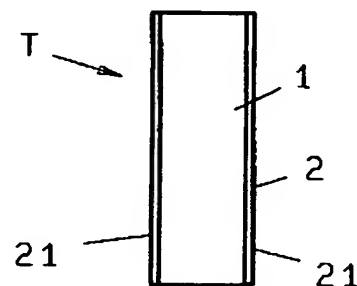
FA08

(54) 【発明の名称】 両面粘着テープ

(57) 【要約】

【課題】 両面粘着テープを貼り付けた床材等を多段に積み重ねても粘着剤が離型紙よりはみ出すことがないので扱い易く、また、床材等の外観を損ねることもない両面粘着テープを提供する。

【解決手段】 板状建材を下地材に接着固定するための離型紙付き両面粘着テープであって、離型紙2の両側縁にドライエッジ部21を形成するように離型紙2と粘着剤1が積層されている。



(2)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 板状建材を下地材に接着固定するための離型紙付き両面粘着テープであって、離型紙の両側縁にドライエッジ部を形成するように離型紙と粘着面が積層されている両面粘着テープ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、床材、壁材、天井材等のような比較的重量の大きい板状建材を下地材に接着固定するために用いられる離型紙付きの両面粘着テープに関する。

【0002】

【従来の技術】住宅の床材や壁材、天井材等（以下「板状建材」という）を下地材に固定する方法として、従来は釘や接着剤などが用いられていたが、釘打ちは施工に手間がかかり、接着剤を使用すると施工後にホルムアルデヒド等の溶剤ガスが放出されて衛生上の問題があり敬遠されている。このような欠点を補うものとして両面粘着テープを用いる方法が提案されている（例えば、実公平6-33099号公報など）。両面粘着テープを使用する場合、製造工場で粘着面を保護するための離型紙付きの両面粘着テープを床材や壁材に貼り付けておき、施工現場で離型紙を剥がして下地材に貼り合わせることに

より施工の手間を軽減することが行われている。

【0003】上記のように工場で両面粘着テープを貼り付けた板状建材は数枚単位で梱包され、倉庫などで数メートルの高さまで積み重ねられる。そのような状態では下段の板状建材が受ける重量は 1m^2 当たり500kgにも達する場合がある。このとき両面粘着テープも同様な荷重を受け、図8に示すように粘弾性を有する粘着剤1cは離型紙2cの両端部から数mm程度押し出され、これに接する別の板状建材30に付着して開梱後に離れ難くなったり、外観が著しく悪くなるという問題があった。

【0004】このような問題を解決するために、板状建材を積み重ねる際、その間に合成樹脂フィルムなどを挟む方法もあるが、これらのフィルムが最終的に廃材となるので好ましくない。また、両面粘着テープを貼り付けた面同士を向き合わせて積み重ねる方法もあるが、やはり粘着剤のはみ出しは発生し、板状建材が四角形でない場合は多段に積み重ねることができず汎用的な方法ではない。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記の問題点を解消し、両面粘着テープを貼り付けた板状建材を多段に積み重ねても粘着剤が離型紙よりはみ出すことがないので扱い易く、また、板状建材の外観を損ねることもない両面粘着テープを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、板状建材を下

地材に接着固定するための離型紙付き両面粘着テープであって、離型紙の両側縁にドライエッジ部を形成するように離型紙と粘着面が積層されているものである。

【0007】即ち、本発明の両面粘着テープは粘着面に貼り合わされた離型紙の幅方向の両側縁部に粘着剤のない部分（以下「ドライエッジ部」という）が形成されたものである。従来、離型紙を剥離し易くするために離型紙の一端部にドライエッジ部を形成することは行われていたが、本発明では荷重を受けた粘着剤が離型紙からはみ出すのを防止するためのものであるから、粘着剤の両側に設けることが必要であり、ドライエッジ部の幅は1mm以上が好ましく、より好ましくは2mm以上である。

【0008】このような両面粘着テープを製造するには、例えば次のような方法が挙げられる。

（1）両面粘着テープの巻重体として1巻ずつ製造する場合

図6において、両面に離型処理した離型紙2aの片面に粘着テープ1を貼り合わせたものを作製し、ドライエッジ部を形成する幅で両面粘着テープ1側から刃を入れて両面粘着テープ1だけを切断（ハーフカット）する（図6イ）。Cはハーフカットによる切断部である。ハーフカットされた両側縁部の両面粘着テープ1aを剥離除去して巻き取る（図6ロ）。

【0009】（2）両面粘着テープの巻重体を複数個同時に製造する場合

例えば、2個の巻重体を同時に製造するときは、図7に示すように、両面に離型処理した離型紙2bの片面に両面粘着テープ1を貼り合わせたものを作製し、両側縁部と中央部にドライエッジ部を形成する幅で粘着テープ1をハーフカットする（図7イ）。次にハーフカットされた両面粘着テープ1bを剥離除去し（図7ロ）、露出した中央部の離型紙2bを切断部Dで切断し（図7ハ）、2個の両面粘着テープを別々に巻き取る。

【0010】（作用）図5に一部を省略した断面図で示すように、板状建材30の一方の面に本発明の両面粘着テープT₁、T₂を貼り付けたものを多段に積み重ね、更に荷重Pを受けることにより、下段の両面粘着テープT₃、T₄が大きな荷重を受け、両側へ押し出された粘着剤10、10は離型紙2のドライエッジ部21、21に広がり、板状建材30の表面に付着せず、板状建材30を1枚ずつ容易に分離することができる。また、板状建材30の表面が粘着剤10により汚染されることがない。

【0011】

【発明の実施の形態】以下に本発明の実施例を説明する。

（実施例1）図1は離型紙付きの本発明両面粘着テープTの実施例を示す平面図であり、図2はこの両面粘着テープTを粘着面を内側にして巻重体とした斜視図であ

(3)

3

る。両面粘着テープTは基材である不織布(図示略)の両面にアクリル系粘着剤1が積層された厚み160 μ m、幅50mmのもの(積水化学社製、商品名「両面粘着テープ#575」)であり、離型紙2は紙基材の両面にポリエチレンがラミネートされ、更にシリコン離型処理された厚み95 μ mのものである。両面粘着テープTの両側縁部の離型紙2面は粘着面のないドライエッジ部21、21が形成されている。

【0012】性能試験

図3に示すように、床材3として木製ボード(50cm¹⁰ × 100cm、重量3kg)を使用し、その裏面の長手*

4

*方向に上記両面粘着テープT₁、T₂を2列で貼り合わせた。図4に一部を省略した斜視図で示すように上記床材3を両面粘着テープT₁、T₂貼付面を下側にして50枚重ね、更にその上から125kgの重りWを2個載せて、40℃、90%RHの室内で1週間放置した後、床材3表面への粘着剤1の付着の有無を観察した。この試験において、離型紙2両側縁部のドライエッジ部21、21の幅が表1に示す4種類のものを用いて比較し、その結果を表1に示した。

【0013】

【表1】

	床材表面への粘着剤付着				
	ドライエッジ幅	開始直後	1日後	1週間後	2週間後
実施例1	1mm	無し	無し	無し	やや有り
実施例2	2mm	無し	無し	無し	無し
実施例3	3mm	無し	無し	無し	無し
比較例1	0mm	無し	有り	有り	有り

【0014】

【発明の効果】本発明の両面粘着テープの構成は以上の通りであるから、これを貼り付けた板状建材を多段に積み重ねても両側へ押し出された粘着剤は離型紙両側縁部に設けられたドライエッジ部に広がり、離型紙よりはみ出すことがないので他の板状建材の表面に付着せず、板状建材を1枚ずつ容易に分離することができて扱い易い。また、板状建材の表面が粘着剤により汚染されないため外観を損ねることもない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の両面粘着テープを示す平面図。

【図2】巻重体とした両面粘着テープを示す斜視図。

【図3】本発明の両面粘着テープの実施態様を示す斜視図。

【図4】性能試験の状態を示す一部を省略した斜視図。

【図5】本発明の両面粘着テープの使用状態を示す一部

を省略した断面図。

【図6】本発明の両面粘着テープの製造工程の例を示す断面図。

【図7】本発明の両面粘着テープの製造工程の他の例を示す断面図。

【図8】従来の両面粘着テープを使用した状態を示す一部を省略した断面図。

【符号の説明】

1、10、1c：粘着剤

30 1a、1b：ハーフカットされた両面粘着テープ

2、2a、2b、2c：離型紙

21：ドライエッジ部

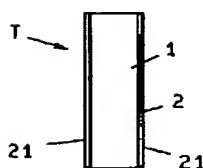
3、30：床材

C、D：切断部

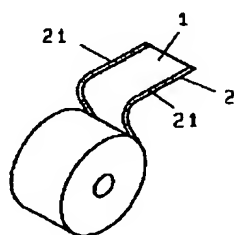
T、T₂、T₃、T₄：両面粘着テープ

W：重り

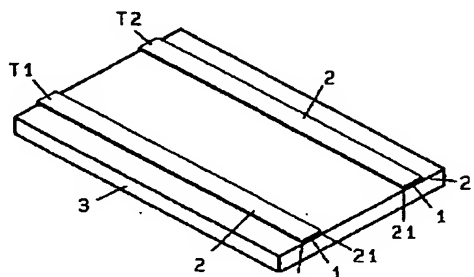
【図1】



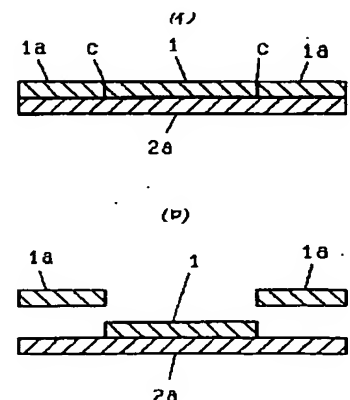
【図2】



【図3】

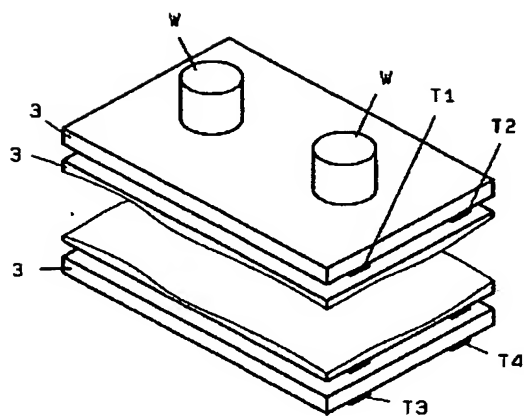


【図6】

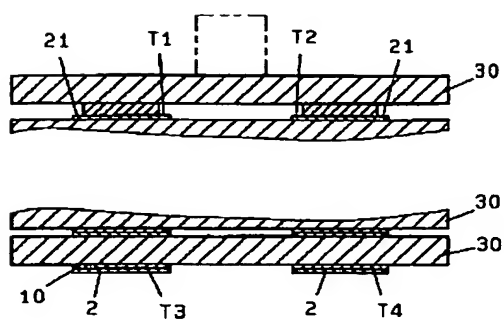


(4)

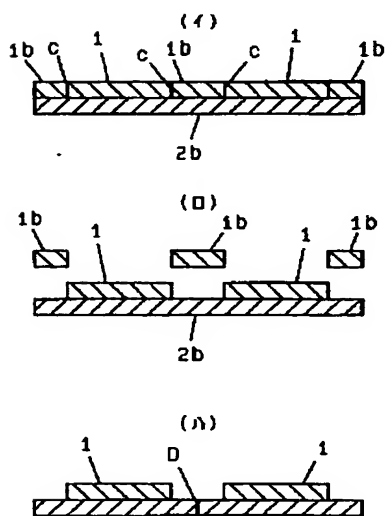
【図4】



【図5】



【図7】



【図8】

